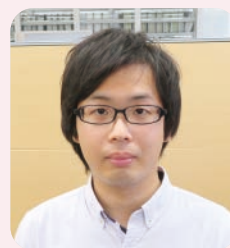


- ①～② 令和4(2022)年度の研究
成果について
- ③～④ 情報ひろば
- ⑤ HAT神戸掲示板
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター
MiRAi

令和4(2022)年度の研究成果について

南海トラフ地震発生時における行政の在り方に関する研究会

研究員 ● 平石 知久



南海トラフ地震発生時に対応する行政の組織体制に関する研究として、「南海トラフ地震発生時における行政の在り方」研究会を令和4(2022)年度に発足しました。南海トラフ地震は沿岸部自治体を中心に広範な被害が予想されており、復旧・復興の過程で行政が対応すべき業務の増大が予想されています。行政のリソースに限られる中で、災害に対応できる持続可能な組織体制とはどのようなものか、またいかにその体制を構築するかということは、災害による被害軽減を考える上で重要な課題となります。

本研究会は行政組織を研究対象とする関係上、行政学者を中心とした研究体制となっています。政策研究大学院大学教授の飯尾潤リーダーの下、委員として5人の行政学者に就任いただき、各専門に特化した研究活動を行っています。上記委員以外にも、工学・農学分野の研究者2人がアドバイザーとして参加しているほか、実務的な知見を持つ県行政職員1人がオブザーバーとして参画しています。

令和4年度は5回の研究会、2回の自治体ヒアリング・現地調査を実施しました。

第1回の研究会では、神戸大学大学院工学研究科准教授(現教授)の畝田泰子アドバイザーより、南海トラフ地震の規模想定、発災後の給水支援の課題、縮退社会における復興の在り方といった問題について工学的見地からの問題提起がありました。また第4回の研究会では、東日本大震災復興構想会の検討部会長として、東日本大震災の復興政策に携わってこられた飯尾リーダーより、東日本大震災の復旧・復興期における国、県および県下基礎自治体との連携について知見の共有や課題の指摘が行われました。

8月29日～31日には、1度目の現地調査として、徳島県庁および同県の基礎自治体として徳島市役所と美波町役場を往訪し、各自治体の防災担当部局に対して南海トラフ地震・津波対策についてヒアリングを実施しました。津波避難タワーや津波一時避難施設といった防災設備に加え、防災の啓蒙施設である徳島県立防災センターへの視察を通じて、徳島県と県下市町村との具体的な連携体制を確認しました。

また12月19日には、2度目の現地調査として、兵庫県危機管理部へのヒアリングを実施した後、災害対策センター内の非常電源設備等の諸施設を視察しました。兵庫県は阪神・淡路大震災の経験を出発点として防災の組織体制を拡充し、各被災地への復旧・復興支援でノウハウを蓄積する中で、関西広域連合や全国知事会を通じた広域支援体制を構築してきました。

なお本研究会は、日本学術振興会の基盤研究B「災害対応における都道府県の役割についての研究」(課題番号: 23H00782)に採択されました。大規模災害時には、市町村の対応能力の低下が想定され、都道府県や国が果たすべき役割が強くなる一方、防災対策は市町村中心となることが基本とされています。本研究課題は、上のような状況にもかかわらず、防災分野において都道府県が市町村への規定力を必ずしも持たない、という逆説を学術的な問いとする理論志向の研究課題です。令和5(2023)年度以降は理論・実務両面から研究を推進していきます。

南海トラフ地震及び首都直下地震を対象とした被害軽減に関する研究会

令和4(2022)年度に「南海トラフ地震及び首都直下地震を対象とした被害軽減に関する研究会」を発足。今後発生が予測されている南海トラフ地震と首都直下地震による被害とその軽減策を検討しています。本研究会は「南海トラフ地震部会」と「首都直下地震部会」の2つの部会で構成され、両部会の下に各分科会が設置されています。

1. 南海トラフ地震部会

主任研究員 ● 朴 延



南海トラフ地震部会の「まちづくり分科会」は、関西大学社会安全学部教授の越山健治リーダーを含む計8人の建築・土木の研究者らが研究を継続しています。1年間の成果として、中間報告書をまとめました。まず、南海トラフ地震対策において将来状況を設定し、不確定性を考慮した防災まちづくりおよび復興まちづくり対策に資する研究を実施しました。次に、被災から復旧・復興する段階を対象として、住宅・まちづくりの分野におけるワーストシナリオについて、専門家の立場から分析した結果を示し、課題の共有と論点の提示を行いました。

「停電分科会」は、関西大学社会安全学部教授の奥村与志弘リーダーを含む計5人の研究者で構成されています。同じく1年間の成果を中間報告書にまとめました。まず、南海トラフ地震の人的被害や社会・経済被害の相転移をもたらす要因を停電の観点から明らかにしました。具体的には、被害が劇的に拡大する停電期間、停電場所、停電の発生形態などを検討しました。次に、相転移を発生させない方策や相転移が発生した場合の被害軽減策を提案しました。水の相転移を例に考えると、圧力を高くすることで沸点が高くなり、温度上昇による相転移が起きにくくなるように、EV車の普及や非常用自家発電設備の普及など、災害の相転移が起きにくくする方策を総合的に検討しています。

両分科会は、河田恵昭・人と防災未来センター長を総括として研究アドバイスを受けながら進めています。本年度も積極的な議論を行いながら研究成果をまとめていきたいと思っています。

2. 首都直下地震部会

研究員 ● 竹口 隼人



首都直下地震部会の「初動対応分科会」は、国土舘大学准教授の中林啓修リーダーを含む計4人の研究者で構成され、応急期以降の課題にも対応できる初動体制の確立に向けた提言をまとめることを目標としています。昨年度は、令和4(2022)年5月に東京都が策定した「首都直下地震等による東京の被害想定」では未想定課題を中心に検討が行われ、以下の内容が中間報告書でまとめられました。

第一に、避難場所に関して。避難場所における通信被害の想定や避難距離の見直し、避難場所の柔軟な設定、これらが必要とされました。第二に、火災に関して。東京都の想定では消火成功率が平時の初期消火成功率で試算されていることや、地震被害・液状化に伴う防火水槽などの使用不能が未想定であること、これらを踏まえると、地震に伴う火災被害が東京都の想定よりも大きくなる可能性が示されました。第三に、インフラ被害が医療機関などへ与える影響について。医療機関などの機能を維持するためには、燃料や水、人員の分配の優先順位の計画を担う広域的な主体と各地域の戦略が必要だと指摘されました。第四に、自衛隊と自治体の連携について。連携の課題として、自衛隊の災害派遣の長期化や、自衛隊内の指揮系統変更に伴う自治体と自衛隊の間での意思疎通の齟齬が挙げられました。

これらを踏まえ、住民の災害・防災・消火に対する意識やそれらに影響する要因や、インフラ被害に伴う医療機関・福祉施設の影響とその際の物資分配の在り方、災害派遣や受け入れ自治体との関係に対する自衛隊の意識について今後研究していく予定です。

Webマガジン

Wonderful
KOBÉ

2巡目の神戸。
明日は今日よりちょっと
幸せになる。

季節の特集、食や暮らし、SDGsの話題に、毎日更新するバンコナーも。会員登録不要です。



ワンダフルコウベ編集部
〔運営:株式会社 神戸新聞総合印刷〕

情報ひろば

こころのケアセンター

こころのケアシンポジウム参加者募集

「トラウマインフォームドケア」をテーマにした基調講演とパネルディスカッション、兵庫県こころのケアセンターの研究報告を行います。

- 日 時＝11月17日(金)13時30分～16時30分
- 会 場＝兵庫県こころのケアセンター 大研修室
- プログラム
 - 第1部 研究報告
酒井 佐枝子(兵庫県こころのケアセンター 研究主幹)
 - 第2部 基調講演
「トラウマインフォームドケアの普及に向けて」
西 大輔(東京大学大学院医学系研究科精神保健学
分野 教授)
 - 第3部 パネルディスカッション
テーマ 「トラウマインフォームドケア」
パネリスト
 - ・西 大輔(東京大学大学院医学系研究科精神保健
学分野 教授)
 - ・酒井 佐枝子(兵庫県こころのケアセンター 研究主幹)
コーディネーター
 - 亀岡 智美(兵庫県こころのケアセンター 副センター長
兼研究部長)

- 定 員＝会場50名およびZoom配信200名(予定)
 - 参加費＝無料
 - 申し込み方法＝会場参加、オンライン配信視聴ともに、
下記申し込みフォームからお申し込みください。
https://www.j-hits.org/form/symposium_r05/
- ※1 所定の参加申込書(※2)をご記入いただき、
FAX等でお申し込みもできます
- ※2 下記ホームページからプリントアウトできます
- ※3 Zoom配信希望者は原則申し込みフォームからお申し込み
ください
- ※4 定員になり次第、締め切らせていただきます



【申し込み・問い合わせ】

兵庫県こころのケアセンター 事業課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017
Eメール jigyoku556@j-hits.org
<https://www.j-hits.org/>

研究戦略センター

研究情報誌「21世紀ひょうご」のお知らせ

現代社会の課題を的確に捉え、専門的立場から課題を分析・紹介し、具体的な提案を行う情報誌です。11月発行予定の第35号の特集では、「脱炭素社会を創る－気候変動への対応－」をテーマに取り上げます。脱炭素社会の必要性和課題、カーボンニュートラルに向けた経済・社会の転換、エネルギーシステムの脱炭素化、日本の進むべき方向性、気候正義と公平・公正など、さまざまな視点に立った論考について幅広い観点から考えます。

【内容】

■巻頭言 川口 順子 (公財)ひょうご震災記念21世紀
研究機構研究戦略センター参与

■特 集 「脱炭素社会を創る－気候変動への対応－」
〈執筆〉

西岡 秀三 地域環境戦略研究機関参与
諸富 徹 京都大学大学院経済学研究科・地球環境
学術教授

明日香 壽川 東北大学東北アジア研究センター教授
宇佐美 誠 京都大学大学院地球環境学術教授
中塚 武 名古屋大学大学院環境学研究科教授

■トピックス

- ・第22回アジア太平洋研究賞(淡路会議)受賞論文
- ・「南海トラフ地震に備える政策研究」研究成果報告会

▶B5判 約120ページ

▶発行＝年2回

※既発行号等については、当機構のホームページをご参照ください
<https://www.hemri21.jp/research/research-the21-hyogo/>

▶購読料＝800円(送料別途)

※定期購読をされる場合は、年間購読料1,600円(送料込み)

【申し込み・問い合わせ】

研究戦略センター交流推進課
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122
Eメール gakujutsu@dri.ne.jp



第12回自治体災害対策全国会議のご案内

全国の自治体職員が、自治体の災害応急対策や復旧・復興への取り組みなどを情報共有しつつ、今後予想されるさまざまな災害への備えについて考える「自治体災害対策全国会議」を開催します。

本年度は、災害対応力の強化について考察を加えます。

- 日時＝11月8日(水)、9日(木)
- 場所＝ラッセホール2階 ローズサローン(神戸市中央区中山手通4-10-8)

●プログラム

【1日目】

- 基調講演「防災DXの現状と展望」
臼田 裕一郎(国立研究開発法人防災科学技術研究所総合防災情報センター長)
- 特別報告Ⅰ「SIP第3期『スマート防災ネットワークの構築』の今後の展望」
高嶺 研一(内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官(インフラ・防災担当))
- 基調報告「逆境の中にこそ夢がある～『不可能を可能に』決断・目標・対応の政治～」
蒲島 郁夫(熊本県知事)

【2日目】

- 特別報告Ⅱ「防災分野におけるデジタル庁の取り組みについて」
根本 深(デジタル庁国民向けサービスグループ企画官(防災担当))
- 事例報告
第1部「先端技術活用による災害への備え」
座長 廣井 慧(京都大学防災研究所附属巨大災害研究センター准教授)
報告者
「ドローンを用いた防災・減災体制の構築に向けて」
岩田 省吾(すさみ町防災対策室長)
「LINEヤフーの防災DXと自治体での活用」
栗栖 典夫三(ヤフー株式会社SR推進統括本部災害支援推進室)
第2部「災害の教訓から進める防災・減災活動」
座長 室崎 益輝(神戸大学名誉教授、兵庫県立大学名誉教授)

報告者

「佐用町水害の経験と防災・減災へのドローン活用について」

久保 正彦((一社)ドローン減災士協会前代表理事、元佐用町企画防災課長)

「災害の経験を踏まえた福知山市の避難のあり方について」

松本 美規夫(福知山市危機管理監)

「人がつくり、人がつなぐ自助・共助の防災～地域目線のICT活用、ネットワーク形成～」

中川 政治((公社)3.11メモリアルネットワーク専務理事(宮城県石巻市))

○総括討議

五百旗頭 真 自治体災害対策全国会議事務総長
((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長)

室崎 益輝 自治体災害対策全国会議企画部会長、事例報告第2部座長

廣井 慧 事例報告第1部座長

※プログラム内容は変更する場合があります

- 定員＝200人(自治体職員に限らずどなたでも参加していただけます)

- 参加費＝無料

- 申し込み方法＝下記のQRコードを読み込んでいただき、10月27日(金)までに「第12回自治体災害対策全国会議申込フォーム」からお申し込みください。

なお、定員になり次第、受付を終了します。

URL <https://www.hemri21.jp/entry/>



【申し込み・問い合わせ】

自治体災害全国会議実行委員会事務局(研究戦略センター内)

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122

Eメール zenkoku@dri.ne.jp <https://www.hemri21.jp/>

兵庫自治学会研究発表会のご案内

「ポストコロナ社会の自治体に求められる地域づくり」を大会テーマに、研究発表会を開催します。学会会員に限らず、どなたでもご参加いただけます。

- 日時＝10月7日(土)13時30分～17時(予定)

※兵庫自治学会の会員は、13時から予定している総会にもご参加ください

- 場所＝兵庫県立大学神戸商科キャンパス(神戸市西区学園西町8-2-1)

※神戸市営地下鉄「学園都市」駅から徒歩約10分

●内容

- 総会(13時～13時20分)
- 基調講演(13時30分～15時)
「ポストコロナ時代の新たな観光モデル構築による地域の活性化」
高橋 一夫(近畿大学経営学部教授)
ポストコロナの時代を迎え観光需要が急速に回復し、関西万博やIRの誘致など関西地方には世界からの観光需要が見込めるイベント等が予定されている。こうし

た好機を生かし兵庫県にも観光需要が取り込めるよう、観光DX等の新たな手法を活用した観光モデルについての先進事例を学び、観光を核とした地域の魅力の向上とその発信のために自治体が果たすべき役割について考える。

○研究発表会(15時05分～17時)

- 申し込み方法＝下記のURLまたはQRコードからお申し込みください

URL <https://tayori.com/f/jichigakkair5/>



【問い合わせ】

兵庫自治学会事務局(研究戦略センター内)

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122

Eメール jichigakkai@dri.ne.jp <https://hapsa.net/>



HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

2023年度コレクション展Ⅱ

兵庫県立美術館では、前身の兵庫県立近代美術館(1970年開館)から収集活動を続け、現在10,000点を超える作品を収蔵しています。「2023年度コレクション展Ⅱ」では、昨年新たに当館のコレクションに加わった新収蔵作品を主役に据えた特集「Welcome! 新収蔵品歓迎会」と、毎年恒例の手で触れて作品を鑑賞できる小企画「美術の中のかたち―手で見る造形 遠藤薫 眼と球」展を開催します。

■会 期＝12月24日(日)まで ※会期中一部展示替えを行います
■観覧料＝一般500(400)円、大学生400(300)円、高校生以下無料、70歳以上 250(200)円、障害者手帳等をお持ちの方(一般)無料、障害者手帳等をお持ちの方(大学生)無料
※()内は団体料金
※一般以外は要証明書

◎休館日＝月曜日(ただし10月9日(月・祝)は開館、10月10日(火)は休館)

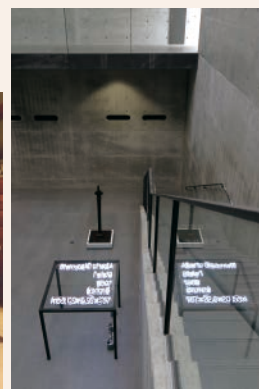
◎開館時間＝10時～18時 ※入場は閉館の30分前まで

※展覧会についての詳細は兵庫県立美術館ホームページ(<https://www.artm.pref.hyogo.jp/>)にてご確認ください

◎問い合わせ TEL 078-262-1011



①



②

①澤田知子《Costume/OKAMI》2003年 令和4年度作者寄贈

②国谷隆志《Untitled (Stele I)》2015年 令和4年度大和卓司氏遺贈記念収蔵「チャンネル6 国谷隆志 Deep Projection」展展示風景(撮影:草木貴照)

JICA関西

◆食えることから始める国際協力!

JICA関西食堂の月替わりエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア)は、どなたでもご利用いただけます。完全禁煙で、子供椅子もご用意しておりますので、お子様連れも大歓迎です。月替わりエスニック料理は、いつもご好評いただいております。

1962年10月9日はウガンダの独立記念日です。同記念日にちなんで、10月はウガンダ料理をご提供します。

また、1954年11月1日はアルジェリアの革命記念日のため11月はアルジェリア料理をご提供します。



写真は9月のウズベキスタン料理

月替わりエスニック料理の詳細と写真はこちら→

JICA関西食堂

<https://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>



■営業時間＝(昼)11時半から14時まで(夜)17時半から21時まで
※各終了30分前ラストオーダー

コロナの状況を踏まえて営業時間に変更になる可能性があります。

■定 休 日＝年中無休(年末年始を除く。)

(注)詳しい休業日についてはJICA関西ホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせください。

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西センター)総務課

TEL 078-261-0341 FAX 078-261-0342

Eメール ksictad@jica.go.jp

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!

→ <https://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

令和5年6月29日から、また7月7日からの大雨により、九州地方をはじめ、広域にわたり甚大な被害が生じました。日本赤十字社では災害発生初期から被災地へ救護班を派遣するとともに、救援物資の配布、赤十字ボランティアによる支援などの活動を行っています。



日本赤十字社では、この災害で被災された方々を支援するため、下記のとおり義援金を受け付けています。

お寄せいただいた義援金は、全額を被災地にお届けいたします。

皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

詳しくはホームページ(<https://www.jrc.or.jp/contribute/help/#kokunai/>)をご確認ください。

医師・看護師等の救護班が被災地で活動するための活動資金も併せて募集しています。

<https://www.hyogo.jrc.or.jp/donate/> →



◎問い合わせ

TEL 078-241-8921(振興課)

赤十字 兵庫

検索



日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

震災資料のメッセージ2023(前期) 「ビデオがつなぐ、被災の記録」を開催中です!

「震災資料のメッセージ」は、人と防災未来センターに寄贈された一次資料(震災当時に被災したり、使用されたりした現物)を紹介するスポット展示です。

今回は「ビデオがつなぐ、被災の記録」をテーマに、阪神・淡路大震災当時に普及していた家庭用撮影機器、映像による被災地記録に焦点を当て、令和6(2024)年1月28日(日)まで西館3階(有料ゾーン)で開催しています。

平成7(1995)年に発生した阪神・淡路大震災では、テレビが連日、現場の様子を報道しましたが、被災地の人々も、自らビデオカメラを手に取り、近隣の状況を映像で記録しています。モノとしての存在が消えつつあるビデオテープには、被災地で流れた時間、人々の見つめた風景、撮影者の視線や行動が刻まれています。これらを後世に残すため資料室で継続的に行ってきたモノからコンテンツへの変換作業についても併せて紹介しています。

また、本展示に合わせ、収蔵するビデオ(コンテンツ)を順次オンライン公開していくほか、関連事業として、9月3日(日)に資料室(西館5階)に「震災ビデオ変換ラボ」を開設しました。震災前後を記録したビデオテープが自宅で視聴できずお困りの場合は、資料室へお問い合わせください。



ビデオのオンライン視聴

https://archive.org/details/@dri_l_a

「震災ビデオ変換ラボ」について

<https://www.dri.ne.jp/material/about/donation/video-lab/>

■お問い合わせ

人と防災未来センター西館5階 資料室

TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062

※資料室はどなたも無料でご利用いただけます(開室9時30分～17時30分、月曜休)



夏休み防災未来学校2023レポート

人と防災未来センターでは、子どもから大人まで誰もが楽しみながら防災・減災について学ぶことができる「夏休み防災未来学校2023」を7月22日(土)～8月26日(土)に開催しました。例年人気の「ペットボトル地震計」「手作りラジオ」等のワークショップに加え、今年は「防災100年えほんプロジェクト(令和4年度に始動した100年先の未来まで防災の知恵を届けられるような“防災絵本”を創作する事業)」関連プログラムなど、幅広い催しを実施し多くの方に参加いただきました。

1～3〈防災100年えほん・語り継ぎ〉

4～8〈ワークショップ〉

9・10〈震災・減災を学ぼう〉

1 防災100年えほんガーデン

7月22日(土)～8月27日(日)、災害伝承や防災・減災などをテーマとする絵本約160冊を一堂に集めた展示イベントを西館2階「防災未来ギャラリー」で開催しました。家族連れ等が絵本を手にとりじっくりと過ごす姿が見られました。



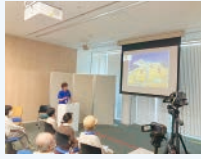
2 防災絵本の読み聞かせ&スペシャルトーク

「防災100年えほんガーデン」の選書を担当した防災絵本専門士でアナウンサーの古賀涼子さんをお招きして、ご自身が選んだ防災絵本の読み聞かせと、防災・減災や災害伝承における絵本の役割などのスペシャルトークを会場とオンライン参加のハイブリッド型で実施しました。



3 「ケヤキの想い」朗読と東日本大震災語り部 小野寺敬子さんのおはなし

「防災100年えほんプロジェクト 防災100年ものがたり募集(第1回)」の入選作品「ケヤキの想い」の作者小野寺敬子さんをお招きし、語りと朗読のイベントを実施しました。東日本大震災で大きな被害を受けた気仙沼で語り部活動をする小野寺さんのお話を伺い、作品朗読は「震災を読みつなぐ会」に行っていました。



4 未来特救ゴッドイーグル 防災ステージ

神戸のご当地ヒーロー・未来特救ゴッドイーグルが初登場し、防災をテーマとした「緊急始動編」「自助共助編」のショーを披露しました。参加者と共にシェイクアウト訓練等を実践し、乳幼児から大人までが一緒に楽しく防災について考える時間となりました。



5 紙パックでつくろう!たてもの耐震スタジアム

耐震構造を学ぶきっかけとして、紙パックだけを使って、どれだけ強い建物を作れるかに挑戦するワークショップを開催しました。作った建物にペットボトルを乗せて強度を測る際には、家族や友達で競い合いながら、どの構造が強いのかを話し合う姿が見られました。



6 ロープワークでミサンガをつくろう!

非常時に役立つ本結びや二重8の字結びなどのロープの結び方を覚えながら、カラフルな紐とビーズを使ってミサンガを手作りしました。小さな子どもには難しい結び方もありましたが、保護者や兄弟と一緒にかわいいアクセサリを完成させていました。



7 「在宅避難」で何?避難生活のノウハウを学ぼう!

近年、災害発生時に避難所に避難するだけでなく、自宅を居場所とする「在宅避難」も重要だと考えられています。在宅避難をするためには、どのような備えが必要なのかを食やトイレなどの例を挙げて幅広く学んでいただきました。「家に帰ってから非常時に役立つものなどを家族で考える」といったご意見も頂きました。



8 サバイバル!手作りラジオに挑戦しよう!

ダンボールやクリップなど身の回りのものを使って、電池を使わないシンプルなラジオを手作りするワークショップを開催しました。ラジオを使ったことがないという子どもたちも多く、ラジオが非常時にも役立つことを改めて知っていただく機会となりました。



9 ひとぼうスペシャルガイドツアー

アテンダントが館内展示のポイントを案内するスペシャルガイドツアーを実施しました。阪神・淡路大震災がどのような災害だったのか、いざというときどう行動すればいいのかを展示を使って学んでいただきました。



10 ハザードマップ読み解きミッション!

東館3階「ミッションルーム(住居)」を会場として、風水害発生時の避難行動を実践した上で、ハザードマップの読み解き方を学びました。参加者自身が住んでいる地域のハザードマップを用いて、災害によって避難場所が異なることや、避難場所までの経路にある危険個所などを確認しました。小中学校以外の避難場所を知らない人も多く、ハザードマップについて改めて理解していただく機会となりました。



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸1-5-2

観覧案内・予約 TEL 078-262-5050 <https://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)

入館料金

大人:600円(450円) 大学生:450円(350円)

東館のみ観覧の場合

大人:300円(200円) 大学生:200円(150円)

高校生、中学生・小学生:無料

※()内は20名以上の団体料金

※障がい者、70歳以上の高齢者割引有

※毎月17日は、入館無料(17日が休館日の場合は、翌18日となります)

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月29日～1月3日

※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休

※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

鉄道

- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
- ・JR「灘」駅南口から徒歩約12分
- ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分

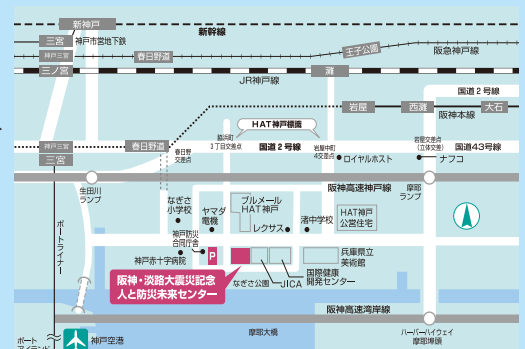
バス

- ・三宮駅前から約15分

車

- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり



令和5(2023)年度春期 災害対策専門研修マネジメントコースを開催しました

人と防災未来センターでは、地方自治体職員などを対象とした「災害対策専門研修」マネジメントコースを平成14(2002)年度から実施しています。当該コースは、災害対策実務の中核を担う人材の育成を目的とし、阪神・淡路大震災の教訓を学習することを重点としつつ、最新の研究成果も取り入れ、能力に応じた体系的・実践的なカリキュラムです。これまでに、延べ3,816人が修了し、受講者から高い評価を得ています。

防災業務初任者から幹部職員までを広く対象に、今回は、ベーシックコースはオンラインで、エキスパートA、エキスパートB、アドバンスト／防災監・危機管理監コースの3

コースは3年ぶりに会場にて実施しました。

アンケートでは、「オンライン研修ならではの難しさ(グループワークの難しさ等)が惜しまれますが、全体的にとっても勉強になる研修で満足できた」「各講義の先生の説明が非常に分かりやすく抽象的ではなく、実践的な現場目線の説明がありがたかった」「幅広いテーマで、災害対応について検討することができた」「現地での会場開催であったため、実際に他の自治体の方などと交流もでき、顔の見える関係もつくれて大変良かった」「実災害への対応の実例や最先端の知見等を含めた高度な研修内容であった」等の意見を頂きました。

コース名	日 程	修了者数
ベーシック	5月31日(水)～6月2日(金)	84人
エキスパートA	6月6日(火)～6月9日(金)	31人
エキスパートB	6月13日(火)～6月16日(金)	32人
アドバンスト／防災監・危機管理監	6月20日(火)～6月21日(水)	26人
合計(延べ)		173人



講義やワークショップの様子



Hem21 NEWS
vol.101

令和5年9月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<https://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究戦略センター

▶研究調査部

TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

▶学術交流部

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください